

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項 目	前回（7 年 7 月判断）	今回（7 年 10 月判断）	前回 比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに回復しつつある	

（注）7 年 10 月判断は、前回 7 年 7 月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、鉄鋼が増加しているものの、汎用・業務用・生産用機械などが減少しており、弱含んでいる。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回（7 年 7 月判断）	今回（7 年 10 月判断）	前回 比較
-----	---------------	----------------	----------

個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	
生産活動	横ばいの状況にある	弱含んでいる	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	

設備投資	7 年度は前年度を上回る見込み	7 年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	7 年度は減益見込み	7 年度は減益見込み	
企業の 景況感	「下降」超幅が拡大している	「下降」超幅が縮小している	
住宅建設	前年を上回る	前年を下回る	
輸出	前年を下回る	前年を下回る	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、物価上昇の継続、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、百貨店販売は、猛暑などの影響により来店客数が減少したことから衣料品などが不調で、前年を下回っている。スーパー販売は、猛暑の影響により冷たい飲料などが好調で、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、割安感からおにぎりやパンが好調で、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、梅雨明けが早かったことから紫外線対策関連商品などが好調で、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、新型車の発売が少なかったことなどから、前年を下回っている。このように、個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 猛暑による外出控えなどの影響により来店客数が減少したことから、夏物衣料などが不調だった。また、9月に入ってから暑い日が続いており、秋物衣料の動きが鈍くなっている。（百貨店）
- 猛暑の影響により、冷たい飲料などの売上が好調だった。また、暑くなると火を使う調理が敬遠されるため、揚げ物を中心に総菜が好調だった。（スーパー）
- 物価高による消費者の節約志向が続いている中、弁当に比べ比較的割安感のあるおにぎりやパンが好調だった。（コンビニエンスストア）
- 例年に比べて梅雨明けが早くその後も暑い日が続いた影響により、日焼け止めなどの紫外線対策関連商品のほか、ネッククーラーなどの熱中症対策商品が好調だった。（ドラッグストア）
- 新型車の発売が少なかったことなどから販売台数が減少している。また、車の性能向上や販売価格上昇により買い替えサイクルは長期化の傾向がみられる。（自動車販売）

■ 生産活動 「弱含んでいる」

鉄鋼は、船舶向けの需要が堅調であることなどから、増加している。汎用・業務用・生産用機械は、国内外で自動車向けの需要が低調であることなどから、減少している。輸送機械は、自動車で在庫見合いにより生産を抑えたことなどから、減少している。電気機械は、EVなどの自動車向けの需要が低調であることなどから、減少している。化学は、国内外で住宅資材向けなどの需要が低調であることなどから、減少している。このように、生産活動は、弱含んでいる。

- 海外で船舶向けの需要が堅調に推移していることから、生産量が増加している。（鉄鋼）
- 国内外で自動車向けの需要が低調なことから、生産量が減少している。（生産用機械）
- 在庫が十分な水準であったため生産を抑えたことから、生産量が減少している。（輸送機械）
- EV市場の減速などにより、自動車向けのパワー半導体の需要が低調なことから、生産量が減少している。（電気機械）
- 国内での建設需要の低迷や中国での不動産市況の低迷により、住宅資材向けの需要が減少していることから、生産量が減少している。（化学）

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移しているほか、新規求人数は、前年を下回っている。一方、法人企業景気予測調査（7年7-9月期）の従業員数判断BSIでみると、製造業・非製造業いずれにおいても「不足気味」超が続いており、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にある。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 採用活動を行う地域を拡大するなど新卒採用を強化しているものの、計画通り採用することができないため、工場操業に支障が出ないよう、中途採用や派遣社員を活用して人手不足を補っている。（鉄鋼）
- 募集するものの応募が少ないなど人手不足が続いているため、採用サイトのリニューアルなどにより新卒採用を強化しているほか、省人化や賃上げ、福利厚生の実施にも取り組んでいる。（小売）
- スキマ時間を活用して働くなど柔軟な働き方を選ぶ人が増えており、そうした短期・単発の仕事（スポットワーク）に従事する人を活用して、店舗運営に必要な人員の確保に努めている。（小売）

■ 設備投資 「7年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年7-9月期

- 製造業では、「生産用機械」などで減少するものの、「情報通信機械」、「自動車」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、「金融・保険」、「小売」などで増加するものの、「電気・ガス・水道」、「運輸・郵便」などで減少することから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

- 中長期的な需要を見込んでおり、新工場建設などの生産能力増強の設備投資を実施。(情報通信機械)
- 前年度の発電関連の大型設備投資の反動により減少。(電気・ガス・水道)

■ 企業収益 「7年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年7-9月期

- 製造業では、「その他製造」などで増益となるものの、「化学」、「情報通信機械」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道」、「金融・保険」)では、「小売」、「不動産」などで増益となるものの、「学術研究・専門・技術サービス」、「建設」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小している」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」7年7-9月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回る」

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家、持家などが減少していることから、前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を下回る」

- 輸出(円ベース)は、船舶が増加しているものの、自動車、化学製品などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、西欧などで増加しているものの、アジア、北米などで減少している。
 なお、輸入(円ベース)は、原油及び粗油、石炭などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、アジア、大洋州などで減少している。

3. 各県の総括判断

	前回 (7年7月判断)	今回 (7年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、樹ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
鳥取県	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	→	個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、弱含んでいる。
島根県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、横ばいの状況にある。
岡山県	緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある中、一部に弱さがみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
山口県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある中、一部に弱さがみられる。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある